

年間第3主日の説教

金 大烈 神父 2009年1月25日(日)

《信仰の山》

おはようございます。

皆様、昨年太田まで開通した高速道路ご存じですね。名前は北関東自動車道です。いつも感じるのですが、その高速道路に乗った時、晴れた日には、空がとても広くきれいに見え、山や山脈もよく見え、とても気持ちよくなります。昨日も渋川に用事があったので乗りました。近い所から赤城山、榛名山、雪の浅間山、そして遠くに北アルプスや谷川岳も見えました。

山は遠くから見ると山の全体や頂上まで見る事が出来ます。そして山に登りたい気持ちになり山に行き、そのふもとでその山の頂上を見ようとしてもそれは見えません。

そして頂上を目指して登り始め山の奥へ入れば入るほど大変になりそして周りも暗くなります。勿論、たまに立っている角度によって頂上が少し見えることもありますが、ほとんど登っている時は頂上を見る事が出来ません。しかし山に登る人の頭には息苦しくても、体が痛くなっても必ず頂上にたどり着くとしか考えていません。

私達の信仰の道が山登りと似ていると思います。洗礼を受ける前の人は、なんだか神様がいるようだけど真の神様ってどういう人物なのかいろいろ調べ、カトリック教会の神様を知りたいと思いき道者の道に進み洗礼を受けます。そしてほとんどの方は感動を感じながら洗礼を受けます。これからは新しい人生を即ち、今までの考え方、やり方を全部捨てて改めて必要な道を歩む覚悟をしながら信仰生活を始めます。しかし時間が経つと鈍くなっていきます。これも一つの人間の弱さというものでしょう。

なんとか山全体が見えていた気がしたけどだんだん複雑になり、"なんで自分はこんなに苦しんでいるんだろう？" "なぜ苦労しながらあそこまで登らなければならぬのか？" "きれいな生き方がしたくて、この道に入ったのに、なぜ汚いものも見なくてはいけないのか。" このように私達は山の中に入って、ある程度近づいて行くと迷い、さまよい、悩む事が出てきます。

山に登る人の心の中には山の頂上が待っているという意識があります。私達はどの辺を登っているのでしょうか。疲れてしまってもこれを乗り越えたら必ず頂上に立つことが出来るという心で登ります。

今日イエス様がペトロとその兄弟アンデレ、そしてヤコブとその兄弟ヨハネを弟子として呼びかける物語が読まれました。イエス様が呼びかけられた途端に不思議に4人のひとは皆、その場で全てを捨ててイエス様について行きます。しかし、このように即刻的に応じて、ついて行ったとしても彼らが使徒として殉教の刀を受ける位の信仰になる為には時間がかかりました。

実際に聖書の中では12人の弟子の一人は迷いに負けてしまいイエス様を裏切ったユダがいます。残りの11人の中にはヨハネ以外の人々はイエス様が十字架の道を歩まれた時、皆逃げました。それまで"主よ、あなた最後までついて行きます。"と公に叫んでいた全員が逃げたことです。しかし聖霊降臨を体験した弟子たちは命をかけて何も怖がらずに福音を述べ伝える事ができました。そしてみんな同じように殉教の刀をいただいたのです。彼らもいろいろな悩みがあったでしょう。私は何故この人間についていかなければならぬのだろう。何故この人を拒む事ができないだろう。何故この人の言うことが心を打つのだろう。わからない、逃げたいという気持ちがあったと思います。

使徒ペトロの場合は結婚している人です、奥さんもいます。息子、娘もいたかも知れません。12人の弟子達で結婚している人は大半だったと思います。それを捨てて何も無い人について行ったのです。それを想像して見て下さい。ある日、突然、神様の子が現れて「私について来なさい」と言われたら、

皆様はついて行けますか？今皆様がやっていること全て捨ててついて行けること出来ますか？しかしこのような心でついて行った者たちも死ぬ時まで迷います。しかし彼らは山のとっぺんまで登りました。これが信仰ではありませんか。

カトリックの用語で洗礼を受ける前の勉強している人の事をなんと呼びますか？『求道者』と表現します。しかし求道者の言葉の意味はなんですか？正しい道を求める人を求道者と呼びます。即ち、洗礼を受けるために勉強する人達に限られている言葉ではなく、私達全ての人が死ぬ時まで求道者の姿を見せなければならないことです。忘れないで下さい。私達は求道者です。

私達は山に登ります。しかし道を外れて下に向かったりもっと奥に入ったりと間違えた道に入る時もあります。その時心の中には正しい道を歩みたい、頂上まで行きたいという望みが何よりも必要であるという事を意識しましょう。それがなかったら私達は何年かかってもいつも同じ所です。

私達は信仰的に成熟にならないといけません。その成熟になる為の一番大きな条件は『心』です。どういう心でしょうか？道から外れずに必ず私の願う所まで行くという心です。そういう『心』があれば、もし外れても必ず戻れます。これが信仰の神秘だと思います。

皆様、私達はいつも求道者の心で神様が呼びかけるその時まで一緒に歩みましょう。

『波乱万丈』『紆余曲折』このような人生を持っていない人っているのでしょうか？ いませんね。

今ここに座っている一人一人の歴史を考えてみますと映画や小説のように複雑です。それも一つの信仰の中で理解しようとするれば、その難しさ、複雑さの意味、そして私達がどのような希望をもって行くべきかがわかってくると思います。

皆様このミサを通してこれからもあなたが教えてくださったその宝物を必ず自分の手に入れますと言う覚悟で行きましょう。

宝石は店で陳列してあっても意味がありません、自分の手にある時、宝石として意味が生きます。皆様宝物が沢山あってもそれが自分の物にならなければ何もなりません。周りに流されずに自分から積極的に主導権を持って正しい方向に行く姿が何よりも必要だと思います。

ありがとうございました。